

学校関係者評価 報告書

対象期間

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

学校法人鶴学園

HITP 広島工業大学専門学校

目 次

1. 評価実施の概要	1
2. 評価結果	
総 評	2
(1) 教育理念・目標・人材育成像	4
(2) 学校運営	4
(3) 教育活動	5
(4) 学修成果	5
(5) 学生支援	6
(6) 教育環境	7
(7) 学生の受入れ募集	7
(8) 財務	8
(9) 法令等の遵守	8
(10) 社会貢献・地域貢献	8
(11) 国際交流	9

広島工業大学専門学校 平成 27 年度 評価報告書

平成 29 年 3 月 7 日

1. 評価実施の概要

評価目的：「広島工業大学専門学校 平成 27 年度 自己評価表」を対象とした学校関係者評価委員による外部評価

評価実施者：学校関係者評価委員会

実施日時：第 1 回目 平成 28 年 9 月 6 日（火） 14:00～17:00

第 2 回目 平成 29 年 3 月 7 日（火） 14:00～17:00

実施場所：広島工業大学専門学校

学校関係者評価委員会の出欠状況

* 欠席した委員には、後日、学校が自己評価結果や活動記録等の資料を持参して説明を行い、意見聴取と評価がなされた。

種別	所 属	役職名	氏 名	第 1 回
高校	学校法人広陵学園 広陵高等学校	教 頭	国 貞 和 彦	出席
業界団体	一般社団法人 広島県情報産業協会	常務理事	高 羽 威	出席
業界団体	公益財団法人 日本照明家協会	理 事	木 谷 幸 江	出席
企業	テンパール工業株式会社	取締役技術本部長	山 本 博	欠席
企業・地域	河井建設工業株式会社	総務部課長	宮 内 秀 実	出席
卒業生	広島工業大学専門学校同窓会	会 長	大 畠 晋 也	出席
本校	広島工業大学専門学校	校 長	玉 野 和 保	出席
	広島工業大学専門学校	副校長	鶴 登美子	出席
	広島工業大学専門学校	教育部長	吉 本 恒 雄	出席
	広島工業大学専門学校	事務長	田 中 豊 子	出席

※役職名については、平成 28 年 9 月 6 日現在

評価の方法

平成 28 年 9 月 6 日に開催された学校関係者評価委員会において、各委員に「平成 27 年度運営報告書」「平成 27 年度自己評価」を配布し、また、教育活動に関する詳細なデータをまとめた「平成 27 年度教育レポート」を参考資料として示し、説明を行った。

説明においては、主に「平成 27 年度運営報告」を使い、「運営計画」「評価尺度」「指標」「達成度」「評価と改善」並びに「平成 28 年度運営計画の見直し」の各項目により、PDCAに基づいて、主には S 項

目（最重点目標）を取り上げて説明を行った。

会議後、評価表を各委員に送付し、評価項目ごとに1（不適切）2（やや不適切）3（ほぼ適切）4（適切）に評価してもらい、評価表を返送していただいた。その平均値をとったものを最終評価とし、また意見の記述についても取りまとめた。その結果は以下のとおりである。

2. 評価結果

総評

学校の教育理念に基づき教育目的・育成人材像が具体的に規定されており、各学科の教育目標・育成人材像は産業界のニーズを踏まえて定められている。

「鶴学園中長期運営大綱」に基づいて年間運営計画が策定され、適切な運営組織と意思決定が行われている。また、運営報告についても、PDCAサイクルに基づいて具体的な指標のもとに評価や報告がなされている。人事、給与等に関する規程等は適切に整備され、運用されている。教育活動に対する情報公開については、主にホームページにより適切に行われており、更新の頻度も妥当である。

「学習成果プレゼン大会」を毎年実施しているが、これは、2年間ないしは3年間の中で、各学科代表の学生が、何をどのように学んだかを、連携企業、保護者、高校教諭、新入生等の前でプレゼンを行うものであり、広く外部へ向けて教育情報公開を行う有益な手段の一つとなっている。また企業等から求められている課題解決力およびプレゼン力を養成する貴重な機会ともなっている。

教育課程は、教育理念に基づき編成・実施されており、各学科の育成人材像・教育目標を踏まえた体系的なカリキュラム運営が行われている。そこにおいては、実践的な職業教育を重視したカリキュラムが用意されており、地域産業界や教育課程編成委員会からの意見聴取によるニーズの把握と、授業評価や研究授業の結果を踏まえたカリキュラムの編成と改善が図られている。また、産学連携によるインターンシップについては、職場体験型から課題解決型へと内容を充実させることに取組んでいるが、次年度以降においては、企業と学生の双方への授業アンケートを実施し、学習成果を踏まえたより充実した内容に改善することとしている。

就職率向上のための就職指導は、一年次生から実施されており、学生の就職活動状況の把握に基づき全校的な就職対策が行われている。また、資格取得については、学科ごとに重点目標を定め、学生の学力や意欲の差異に応じた受験指導やeラーニング等の取組みが展開されている。

退学率の低減については、出席率・学習状況を含めた全ての学生情報を毎月の出席会議で全校的共有化を図っており、問題の予兆がある学生には早期に対応策が取れるよう努めている。

今年度の退学率は2.9%となり、前年度（平成26年度）の退学率5.2%より改善されてはいるが、安易な動機による入学や、学ぶ目的意識が希薄な学生も見られ、退学率という数字だけでは退学抑止についての指導の成果が測れないという側面がある。いずれにしても、今後とも、全学的な取組みとなるよう、また、適切な対応が取れるよう教員の資質向上や指導力研修等に力を注ぐことが望まれる。

進路については、学園内編入学推薦制度により、広島工業大学への進学が円滑に行われており、また、「英語」「数学」「物理」等の一般教養科目を受講させることで、編入後の単位取得において負担軽減を図る支援により、5名の学生が編入学をしている。就職については、チューターとキャリアサポートセンターが連携して早い時期から個々の学生に対応した様々な就職支援を実施することで、就職内定率は98.8%となった。（就職内定者 171名／就職希望者数 173名）

教育目的を達成するため、専修学校設置基準で求められている校地、校舎、及び施設・設備については、適切に整備され、有効に活用している。特にIT教育には力を入れており、学生全員にメールアドレスを配布し、インターネットや電子メールの活用促進を図っている。また、ワードやエクセルなどの情報リテラシー教育をすべての学科で展開し、資格試験にもチャレンジさせている。

学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会から指摘のあった「コミュニケーション力不足」と関連していると思われる「書く力」の養成について、平成26年度から授業科目「文章技術」として全学科導入に半期の授業科目として実施している。学生からのアンケートによると、書く力が以前よりは身に付き「満足している」「まあまあ満足している」と回答した学生は85%であり、今後も継続していくこととした。更に次年度以降は、「読む力」の養成にも努める必要がある。基礎学力の向上と長文問題に対応できる読解力を身に付けることが、高度資格取得の合格率向上へ繋げることができると考えられる。

学内外の施設・設備については、学校法人鶴学園の共有施設や広島工業大学の実習施設等を機械工学科や土木工学科等で有効に活用し、適切な教育環境整備が図られている。

海外研修については、シンガポールとベトナムにそれぞれ姉妹校があり、シンガポール研修旅行へ10名、ベトナム研修旅行へは6名の学生が参加した。次年度はさらに多くの学生の参加が望まれるところである。

学生募集活動については、ホームページを中心に教育成果等を広く公開しており、その内容については、正確を記している。オープンキャンパスでは、高校生や保護者に対して、教育方針や各学科の特色、教育内容の説明が丁寧に行われている。

財務状況は、学校法人鶴学園としての財務三表を中心とする情報がホームページで公開されており、その中に当該専門学校の財務情報も含まれている。平成27年度においては、消費収支・資金収支とも黒字化が図られており、中長期的に見た財務基盤は安定している。

法令等の遵守については、学校教育法及び専修学校設置基準等の関係法令と学内規程に則って適切な学校運営と教育活動が行われている。また、個人情報保護法についても適切に対応している。

社会貢献については、学校をあげて学生・教職員が共に積極的なボランティア活動に取り組んでいる。

留学生受入については、製造業関連の企業が多く進出しているベトナムを対象として、現地にある日本語学校と連携し、優秀な学生の入学促進を図っている。また、受入業務や在籍管理等の手続きについては、国際交流センターの担当職員が適切に行っている。平成27年度は、4名の留学生（中国2名・ベトナム2名）が指定校推薦で合格し、平成28年4月に入学した。次年度以降も、途切れることなく留学生の入学促進を戦略的に取り組むことが望まれる。

総じて、同校は、「学生一人ひとりを大切にし、学生に寄り添った丁寧な教育を展開し、社会の期待に応える中堅技術者を育成する」ことを教育目標とし、企業等からの意見やニーズを教育目標・育成人材像に反映させ、また実際にカリキュラム編成の改善を行う等に活かしている。出席状況は1コマごとに取られ、登校していない学生で欠席の連絡がない者については、その日のうちにチューターが連絡を入れている。また、欠席が続く場合は保護者への連絡や相談をしている。これらのことにより、全学生の平成27年度平均出席率は87.6%となっているが、90%を目標に今後もきめ細やかな指導を継続することとしている。

学生募集については、高校生の就職環境が好調のためか、電気・情報系の入学者が前年度より減となっている。次年度以降は更なる募集強化が必要である。

(1) 教育理念・目標・育成人材像

①評価結果

適切である。＜4段階評価 委員平均ポイント 3.7＞

②理由

- ・教育理念は、同専門学校の設置母体である学校法人鶴学園の建学の精神「教育は愛なり」、教育方針「常に神とともに歩み社会に奉仕する」という建学の精神に基づいており、それらの教育理念を具現化するための学校の教育目標を「学生一人ひとりを大切にし、学生に寄り添った丁寧な教育を展開し、社会の期待に応える中堅技術者を育成する」と定めている。
- ・各学科の教育目標と育成人材像は、学校の教育目標を踏まえて学科の専門分野の特性と産業界の求める人材ニーズなどに対応するよう定められている。
- ・平成 26 年度より教育課程編成委員会並びに学校関係者評価委員会の委員の意見を受け、全学科において必須科目「文章技術（半期：2 単位）」を開講させた。平成 27 年度に受講学生からの授業満足度アンケートを取った結果、85%が満足と回答している。

③委員からの意見

- ・教育の質保証・向上を踏まえ、産学連携の重要性を研修会等で教職員に啓蒙していくとされているが、具体的な方策は何か？
- ・プログラマーのレベルではなく、要件定義や上流工程ができる人が足りない。大きな問題となっている。専門学校で養成できる人材像を明確にしていかなければならないと思う。
- ・機械工学科や土木工学科で取り組まれている安全教育を、全学科共通で、その学科の特性を見ながら行うという学校の計画については、大変良いことだと思う。情報系学科でいえば、セキュリティへの対応となるのではと思われる。
- ・教育の質保証・向上を目指すための基本となるディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）、アドミッションポリシー（AP）については、計画どおり進めていって欲しい。

(2) 学校運営

①評価結果

適切である。＜4段階評価 委員平均ポイント 3.5＞

②理由

- ・鶴学園中長期運営大綱(平成 18 年度から平成 27 年度)に基づいて専門学校の年間運営計画が策定され PDCA サイクルに基づいた目標管理が実施されており、適切な運営組織と意思決定が行われている。また、人事、給与等に関する規程等は適切に整備され、運用されている。
- ・教育活動に対する情報公開については、主にホームページにより適切に行われており、更新の頻度も妥当である。
- ・業務の円滑な推進と効率化を図るためガントチャートを作成し、関連部署で情報共有を行いながら業務を遂行している。

③委員からの意見

- ・運営組織や意思決定機能においては、「善管注意義務」に触れても良いのではないだろうか？

(3) 教育活動

①評価結果

ほぼ適切である。〈4段階評価 委員平均ポイント 3.2〉

②理由

- ・教育理念に基づく教育課程が編成・実施されており、各学科の育成人材像・教育目標を踏まえた体系的なカリキュラム運営が行われている。
- ・実践的な職業教育を重視したカリキュラムが用意されており、地域産業界からの意見聴取によるニーズの把握と授業評価や研究授業の結果を踏まえた教育課程の編成と改善を行うとともに、教育方法の見直しが図られている。
- ・企業勤務経験者や有資格者を必要に応じ教員として採用することにより、関連学科の育成人材・教育目標の達成を促すとともに、産学連携によるインターンシップの推進と充実を図っている。
- ・音響映像系学科の授業では、地元のテレビやラジオで活躍しているプロデューサーやクリエイターを講師として招きユニークな授業を展開させており、学生の業界研究や職業理解に役立っている。
- ・各種資格取得のための指導体制は学生への個別対応が行われており、そのためのカリキュラムは体系的に編成されている。
- ・職員の能力開発については、学校法人鶴学園全体での職員研修会が定期的に行われており、専門学校職員も参加をしている。
- ・課題解決型学習推進のため、企業派遣講師と密接な連携を取りながら、学生には、前期に企業から出された課題に取り組みせ、その後に中間評価を行い、また後期の終わりには、その成果を発表させ、企業連携の基に最終評価を行っている。今後は、さらに密度の濃い企業連携と学習内容の充実が求められている。

③委員からの意見

- ・平成 27 年度に学習成果プレゼン大会において最優秀賞に輝いた電気工学科「実践的な電気実習 ～自動点滅器の施工～」は、校内のひとけのない廊下に自動で光るライトを取り付け危険性のある場所での作業を効率良く安全に行えるよう問題解決を図ったものであり、また、省エネにも配慮されている点が高く評価されるものであった。
- ・土木工学科におけるドローン等これからの新しい技術への取組みに期待したい。
- ・舞台照明業界においても、安全への対策が求められてきている。安全教育を全学科で取り組もうとされていることはとても良いことだと思う。

(4) 学修成果

①評価結果

ほぼ適切である。〈4段階評価 委員平均ポイント 3.0〉

②理由

- ・就職率向上のための就職指導が一年次生からキャリアサポートセンターとチューターとの連携のもとに実施されており、学生の就職活動状況の把握に基づき全校的な就職対策が行われている。

- ・学科ごとに資格取得の重点目標を定め、学生の学力や意欲の差異に応じた受験指導を行っている。電気工学科では、難関試験（平成 27 年度全国平均合格率 7.7%）の第三種電気主任技術者に 1 名が合格した。その他の重点資格として、基本情報技術者に 5 名、二級建築士に 11 名、インテリアコーディネータに 4 名、測量士補に 3 名が合格した。
- ・退学率の低減を目指し、授業の工夫や出席指導に十分な配慮がなされており、特に全ての学生情報を一元化した「学生情報交換システム」による情報の全校的共有化により学習指導と生活指導の充実が図られている。退学者数は 13 名（2.9%）となり、前年度の 24 名（5.2%）より改善した。

③委員からの意見

- ・在学生の社会的な活躍及び評価を把握していますか？ 活躍及び評価に、カリキュラムとは別に、例えばボランティア活動を評価対象にできないでしょうか。
- ・平成 27 年度は 98.8%の就職内定率であり、就職率の向上に対する取り組みについては、適切に行われていると評価できる。
- ・資格取得とは、あくまで学んだ結果として取得できたというものであり、今後の授業の取組みにおいても、資格取得そのものが学習の目的になってはならないと思う。資格はあるが実務ができない、基礎的なことを学んでおらず入社後に伸びないということに繋がる恐れがあると思う。

(5) 学生支援

①評価結果

ほぼ適切である。〈4段階評価 委員平均ポイント 3.1〉

②理由

- ・就職に関しては、チューターとキャリアサポートセンターが連携し、学生に対しての自己分析・自己PRへの取り組み指導や面接指導において、学生一人ひとりに個別に対応しており、適切な支援体制が整備されている。
- ・進学に関しては、広島工業大学への編入学推薦制度が設けられており、当該専門学校において「英語」「物理」「数学」等の一般教養科目を開講することにより、編入学後の単位取得において負担軽減を図っている。また、編入希望学生の学習意欲や意識の向上を図ることと、編入に対する不安を解消させるため、既に編入した学生との「情報交換会」を開催している。
- ・学生相談については、基本的には各チューターが当たるが、学科を超えた相談体制として4名の教職員をおき、「学生便覧」への掲載や顔写真入の「教職員の紹介」により、相談し易い体制を取っている。

③委員からの意見

- ・高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているかという評価項目についてであるが、入学前女子会を企画し実施されたことは評価されてよいと思うので、自己評価は2ではなく3で良いのでは。

(6) 教育環境

①評価結果

ほぼ適切である。〈4段階評価 委員平均ポイント 3.0〉

②理由

- ・教育目的の達成を図るために必要な校地・校舎・施設設備などの教育環境は適切に整備、活用されている。
- ・土木工学科、機械工学科については学校法人鶴学園の共有研修施設や、広島工業大学の設備を活用し、当該専門学校だけではできない実習環境が提供できている。
- ・インターンシップについては、情報・電気・機械・土木の学科において、就職先となる企業を中心として、積極的に就業体験をさせている。
- ・音響映像系学科においては、老朽化したレコーディングシステムと中継用カメラシステムを最新のものに更新した。
- ・土木工学科においては、土質試験機器「液性限界測定装置」を導入し土木材料実習の充実を図った。
- ・海外研修旅行への参加を促進するため同窓会と連携し、同窓会より「グローバル人材育成支援金」を支給し支援をしている。

③委員からの意見

- ・同窓会からのグローバル人材育成支援金制度は大変良いことだと思う。海外へ自ら手を挙げて行くような積極的な人材が欲しい。

(7) 学生の受入れ募集

①評価結果

適切である。〈4段階評価 委員平均ポイント 3.3〉

②理由

- ・学生募集活動において、ホームページを中心として、高校生や保護者等に情報提供している資格取得状況や就職内定等の教育成果は、根拠を示したものであり、的確であると思われる。
- ・ホームページの「学科ニュース」では、各学科における教育活動の取組みが紹介されており、分かりやすい内容となっている。2週間に1回という更新頻度も適切である。
- ・教育方針及び各学科の特色、教育内容は、オープンキャンパス等に参加した生徒一人ひとりと、当該専門学校の教員が面談し、理解を得る取組みがなされており、ミスマッチを防いでいる。
- ・保護者説明会においては、校長から保護者に対して指導内容・方法について詳細な説明を行っている。また、在校生が自らの学びや学生生活について話をし、保護者からの質問にも応える機会を作っている。

③委員からの意見

- ・特になし

(8) 財務

①評価結果

ほぼ適切である。＜ 4段階評価 委員平均ポイント 3.4 ＞

②理由

- ・ 予算や収支計画は所定の手続きを経て承認・執行されており、財務については監事と公認会計士による会計監査が適切に実施され、その結果は評議員会と理事会に報告されている。
- ・ 学校法人鶴学園として財務三表を中心とする情報がホームページで公開されており、その中に当該専門学校の財務情報も含まれている。

③委員からの意見

- ・ 特になし。

(9) 法令等の遵守

①評価結果

適切である。＜ 4段階評価 委員平均ポイント 3.4 ＞

②理由

- ・ 学校教育法及び専修学校設置基準等の関係法令と学内規程に則って適切な学校運営と教育活動が行われている。
- ・ 個人情報保護の法令遵守に関する基本方針については、学生に配布する「学生便覧」への記載や学内掲示がなされ適切な対応がされている。

③委員からの意見

- ・ 個人情報のセキュリティに関して、ハード面、ソフト面の両方においてどう対応しているかを示された方が良いと思う。

(10) 社会貢献・地域貢献

①評価結果

ほぼ適切である。＜ 4段階評価 委員平均ポイント 3.4 ＞

②理由

- ・ 鶴学園の教育方針である「常に神とともに歩み社会に奉仕する」を実践するために、様々なボランティア活動に学校をあげて取り組んでいる。学校行事の一環としてボランティア活動は年間の行事予定に組み込まれており定着していると言える。また、シンガポールとベトナムへの海外研修旅行においても、プログラムの中にボランティア活動を入れ、前年度と同様に障がい児施設の訪問を実施した。

③委員からの意見

- ・ 特になし

(11) 国際交流

①評価結果

適切である。＜4段階評価 委員平均ポイント 3.8＞

②理由

- ・ベトナムホーチミン市にある日本語学校1校、国内の日本語学校8校を本校の指定校とし、当該校長の推薦により優秀な留学生を受入れる仕組みができており、平成27年度に推薦された学生4名（中国2名・ベトナム2名）が、平成28年4月から入学することとなった。
- ・留学生の受入、在籍管理等においては、担当部署である「国際交流センター」の職員が適切な手続きを取っており、問題なく実施されている。
- ・留学生の学修・生活指導等については、チューターが責任を持って対応する他に、国際交流センターの職員も生活や悩み等について定期的に面談してヒヤリングを行い、相談し易い体制を作っている。

③委員からの意見

- ・企業においても、海外の工場で働く経験をすることにより想定した以上に成長する者もいる。若い間に挑戦させることが非常に大切であると思う。

以上